

第 3 6 8 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 6 年 6 月 2 8 日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
-------	-----	-----------	------------------------------------	-----	-------

III 公開審議事項

1. 委員会関係

提案 1	(機能別委員会) 科学者委員会 小分科会委員の決定 (追加 1 件)	会長	4	小分科会委員を決定する必要があるため。	三枝副 会長	内規18条
提案 2	(分野別委員会合同 分科会) (1)第一部合同分科会 を設置すること(新規 設置 1 件) (2)第一部合同分科会 委員の決定(新規 1 件)	第一部長	5	第一部総合ジェンダー分科会を設置するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	第一部 長	(1)会則27 条 1 項、第 79回幹事会 決定「部が 直接統括す る分野別委 員会合同分 科会につい て」 (2)内規18 条
提案 3	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改 正(新規設置 2 件) (2)分科会委員の決定 (新規 2 件、追加 5 件) (3)小委員会委員の決 定(新規 1 件)	(1)言語・文学委 員会委員長、総 合工学委員会委 員長 (2)第一部長、第 二部長、第三部 長 (3)第三部長	7	分科会及び小委員会の設置に伴い、運営 要綱を一部改正するとともに、分科会委 員及び小委員会委員を決定する必要があるため。	第一部 長、第 二部 長、第 三部長	(1)会則27 条 1 項 (2)(3)内規 18条

2. 国際関係

提案 4	令和 6 年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	13	令和 6 年度代表派遣について、実施計画を変更する必要があるため。	日比谷 副会長	国際交流事業の実施に関する第21条
提案 5	令和 6 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣について、変更すること	会長	14	令和 6 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について、変更する必要があるため。	日比谷 副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規59条

3. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和6年度第3四半期】

提案 6	学術フォーラム「サステナブル社会への移行における資源循環の役割」の開催について	材料工学委員会委員長、環境学委員会委員長、総合工学委員会委員長、法学委員会委員長	15	主催：日本学術会議 日時：11月22日（金）午後 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第2
------	---	--	----	---	---	--------

4. その他のシンポジウム等

提案7	日本学術会議近畿地区会議学術講演会「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」の開催について	科学者委員会委員長	19	主催：日本学術会議近畿地区会議 日時：令和6年9月7日（土）13：00～17：00 場所：京都大学国際科学イノベーション棟 5F シンポジウムホール（京都市左京区）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	－	内規別表第2
-----	---	-----------	----	--	---	--------

提案 8	公開シンポジウム 「ワンヘルス～未来を創る世代とともに考える～」の開催について	第二部長	21	主催：日本学術会議第二部、岡山大学 日時：令和 6 年 8 月 8 日（木）13：00～15：30 場所：岡山大学共育共創コモンズ（岡山県岡山市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 9	公開シンポジウム 「スタートアップが繋げる農学と農業～望ましい共創のあり方～」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長、若手アカデミー代表	24	主催：日本学術会議食料科学委員会、農学委員会、若手アカデミー 日時：令和 6 年 8 月 28 日（水）13：30～16：50 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案10	公開シンポジウム 「心理学国家資格「公認心理師」の社会的役割と活動の実際」の開催について	心理学・教育学委員会委員長、社会学委員会委員長、法学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	27	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会 日時：令和 6 年 9 月 23 日（月・祝）13：00～15：30 場所：パシフィコ横浜会議センター（神奈川県横浜市） ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案11	公開シンポジウム 「迷走する国際秩序と人道危機」の開催について	政治学委員会委員長	29	主催：日本学術会議政治学委員会紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会 日時：令和 6 年 10 月 5 日（土）13：30～17：00 場所：東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール（東京都目黒区）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案12	公開シンポジウム 「あごと顔の発生と進化」の開催について	歯学委員会委員長	31	主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会 日時：令和 6 年 11 月 2 日（土）14：50～16：20 場所：長崎大学医学部第 1 講義実習棟第 1 講義室（長崎県長崎市） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案13	公開シンポジウム 「海底地質災害と洋上風力開発」の開催について	総合工学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	33	主催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 日時：令和 6 年 11 月 14 日（木）10：00～18：00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案14	日本学術会議東北地区会議学術講演会 「東北地方の持続的食料生産のこれから～畜産業、水産業」（仮題）の開催について	科学者委員会委員長	37	主催：日本学術会議東北地区会議 日時：令和 6 年 11 月 30 日（土）13：30～16：35 場所：東北大学片平キャンパス片平北門会館 2 階エスパス（宮城県仙台市青葉区）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第 2
提案15	公開シンポジウム 「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（3）」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	40	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 日時：令和 7 年 2 月 15 日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2

5. 後援

提案16	国内会議の後援をすること	会長	42	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第50回全国語学教育学会年次国際大会 ・ランチョン大討論会：私達が望む神経科学の研究環境—よりよき現在と未来へ向けて	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

6. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は7月29日(月)14:30～開催予定。	43

【機能別委員会】

○小分科会委員の決定（追加 1 件）

（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会包括的反差別法小分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
高橋 裕子	津田塾大学学長・教授	第一部会員
來田 享子	中京大学スポーツ科学部教授	連携会員

【設置：第367回幹事会（令和 6 年 5 月 31 日）、追加決定後の委員数：12名】

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

合同分科会の名称：第一部総合ジェンダー分科会

1	担当部及び関係委員会名	第一部
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	・第一部のジェンダー関連分科会間の連携・情報共有を図る。 ・科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会では、第6次男女共同参画基本計画に向けた提言や包括的反差別法制定に向けた提言の作成のため小委員会を設置するなど準備を進めていることから、第一部内の各委員会に設置されているジェンダー関連分科会間の連携・情報共有を図り、これらの提言の作成に協力する。 ・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）との連携の維持・強化を図る。
4	審議事項	1. 第6次男女共同参画基本計画に向けた提言作成への協力 2. 包括的反差別法制定に向けた提言作成への協力 3. 教育・研究機関におけるジェンダー平等推進のための取組
5	設置期間	令和6年6月28日～令和8年9月30日
6	備考	

【分野別委員会合同分科会】

(第一部総合ジェンダー分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
岩井 紀子	日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学 JGSS 研究センターセンター長	第一部会員
臼井 恵美子	一橋大学経済研究所教授	第一部会員
島岡 まな	大阪大学大学院法学研究科教授／副学長	第一部会員
嶋田 洋徳	早稲田大学人間科学学術院教授	第一部会員
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
高橋 裕子	津田塾大学学長／教授	第一部会員
芳賀 満	東北大学高度教養教育・学生支援機構教授	第一部会員
原田 範行	慶應義塾大学文学部教授	第一部会員
野口 晴子	早稲田大学政治経済学術院教授	第一部会員
三尾 裕子	慶應義塾大学文学部教授	第一部会員
小島 優子	国立看護大学校看護学部教授	連携会員
窪田 幸子	学校法人芦屋学園芦屋大学学長／神戸大学名誉教授	連携会員
二神 枝保	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授	連携会員
三浦 まり	上智大学法学部教授	連携会員
三成 美保	追手門学院大学教授／奈良女子大学名誉教授	連携会員

【設置予定：第 368 回幹事会（令和 6 年 6 月 28 日）、決定後の委員数：15 名】

分野別委員会運営要綱（平成26年 8 月28日 日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第 1					別表第 1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
言語・文学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	言語・文学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	言語・文学委員会日本文学の伝統と現代社会分科会	現代社会における日本文学の役割に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	令和 6 年 6 月28日 ～ 令和 8 年 9 月30日		(新規設置)			
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	(略)	(略)	(略)		総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会	1. 熱エネルギー有効利用を進めるために必要な技術、政策等 2. 社会実装可能な熱利用技術・システムの検討、需給マッチングとそれに要求される課題抽出、要素技術と市場ニーズの統合に必要な条件 3. シンポジウム開催など社会への発信に係る審議に関すること	30名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和 6 年 6 月28日 ～ 令和 8 年 9 月30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

言語・文学委員会分科会の設置について

分科会等名：日本文学の伝統と現代社会分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	言語・文学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	グローバル化が進む現代、日本社会においても欧米への関心が高まり、自国への興味が薄れつつある一方で、日本の優位性を手放しで称賛するような極端な主張も見られる。また、日本の伝統芸能、伝統文化が海外から評価される一方、継承者不足は深刻な状況にある。こうしたアンバランスな状況を是正し、伝統文化を継承発展させていくために、日本文学(古典)の普及と活用は一つの手がかりとなり得よう。指導要領の改訂で、「文学国語」「論理国語」が分けられ、若い世代が文学作品(古典作品)に触れる機会がますます減ることが危惧されている。そうした教育現場の状況も踏まえ、本分科会は、若い世代や一般市民との対話を通して、日本文学への理解を深める方法を審議する。外国文学、観光、美術、演劇、伝統話芸、情報学、漫画、アニメ、ゲームといった領域を視野に入れ、構成員に哲学や芸術学、アジアの文学、ヨーロッパ古典文学などの専門家(連携会員)を含めることで、学際的な視座を担保しつつ、ICTを活用しながら、日本文学の普及や古典の現代的活用について提言することを目指す。
4	審議事項	現代社会における日本文学の役割に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年6月28日～令和8年9月30日
6	備考	

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会小委員会の設置について

分科会等名：カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	総合工学委員会
2	委員の構成	30名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	日本の民生・産業部門における消費エネルギーの約6割は熱需要である。一方で、国内一次エネルギー投入量の約6割が最終的に熱として排出されており、太陽熱、地中熱などの再生可能エネルギー熱の利用にも多大な余地を残している。熱エネルギーの有効利用、未利用熱の活用は一次エネルギー消費を削減し、2050年カーボンニュートラル実現に大きく寄与すると期待されている。 未利用熱の活用や廃棄されている熱の有効利用には、発生する熱と利用側の温度、場所、時間の相違を繋げるための、熱エネルギーの回収、貯蔵、輸送、変換技術の高度化、熱需給のマッチングが不可欠である。同時に、熱の需要と供給のインフラ整備、制度の改変、市民意識など技術にとどまらない社会的条件に関する課題も重要である。 本小委員会では、熱利用技術高度化の中心となる技術課題の抽出、個別に開発された熱エネルギー利用技術の集約と市場ニーズの統合、カーボンニュートラル実現への熱エネルギー利用の寄与の可視化など、熱エネルギー有効利用が進展するための課題、持続可能な熱利用社会とそこに至る道筋について検討し、意思の表出を行う。
4	審議事項	1. 熱エネルギー有効利用を進めるために必要な技術、政策等 2. 社会実装可能な熱利用技術・システムの検討、需給マッチングとそれに要求される課題抽出、要素技術と市場ニーズの統合に必要な条件 3. シンポジウム開催など社会への発信 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年6月28日～令和8年9月30日

6	備考	第 25 期には、環境学委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会との共同主催で以下の公開シンポジウムを企画・運営し、記録の公表を行った。 <u>公開シンポジウム</u> ・令和 3 年 11 月 6 日、「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」 ・令和 5 年 5 月 12 日、「カーボンニュートラル時代の熱エネルギー—革新技術と社会実装—」 <u>記録の公表</u> ・令和 5 年 9 月 8 日、記録「公開シンポジウム開催記録」
---	----	---

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（新規２件）

（言語・文学委員会日本文学の伝統と現代社会分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
植木 朝子	同志社大学文学部国文学科教授	第一部会員
原田 範行	慶應義塾大学文学部教授	第一部会員
吉岡 洋	京都芸術大学文明哲学研究所教授	第一部会員
有元 伸子	広島大学大学院人間社会科学研究科教授	連携会員
海野 圭介	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	連携会員
小黒 康正	九州大学大学院人文科学研究院教授	連携会員
木村 勝彦	長崎国際大学副学長／教授	連携会員
佐藤 利行	公立大学法人福山市立大学理事長／学長	連携会員
日比 嘉高	名古屋大学大学院人文学研究科教授	連携会員
日向 太郎	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員

【設置予定：第 368 回幹事会（令和 6 年 6 月 28 日）、決定後の委員数：10 名】

（薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科教授	第一部会員
奥田 真弘	大阪大学医学部附属病院教授／薬剤部長	第二部会員
澤 芳樹	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻未来医療学寄附講座特任教授	第二部会員
光石 衛	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授	第三部会員
新井 洋由	東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター健康環境医工学部門客員研究員	連携会員
石井 明子	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部部長	連携会員
井上 純一郎	東京大学特命教授	連携会員
加納 信吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野教授	連携会員
佐治 英郎	京都大学特任教授／京都大学名誉教授	連携会員
関野 祐子	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授	連携会員
高橋 政代	株式会社ビジョンケア代表取締役社長	連携会員
林 裕子	山口大学大学院技術経営研究科教授（特命）	連携会員

【設置：第 363 回幹事会（令和 6 年 2 月 29 日）、決定後の委員数：13 名】

○分科会委員の決定（追加 5 件）

（言語・文学委員会言語コミュニケーションと共生分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
-----	-----------	-----

小泉 政利	東北大学大学院文学研究科教授	連携会員
-------	----------------	------

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：13 名】

（経済学委員会数量的経済・政策分析分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
石井 利江子	滋賀大学経済学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：18 名】

（地球惑星科学委員会地球惑星科学次世代育成分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
藪田 ひかる	広島大学大学院先進理工系科学研究科教授	第三部会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：21 名】

（情報学委員会情報学教育分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
谷口 倫一郎	九州大学理事／副学長	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：19 名】

（土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同子どもの成育環境分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
上野 佳奈子	明治大学理工学部建築学科専任教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：17 名】

○小委員会委員の決定（新規 1 件）

（総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
北川 尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部会員
高田 保之	九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所特命教授／名誉教授／エディンバラ大学名誉教授	第三部会員
岩城 智香子	東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー	連携会員
青柳 みどり	国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域脱炭素対策評価研究室シニア研究員	連携会員
宮崎 久美子	東京工業大学名誉教授	連携会員

【設置予定：第 368 回幹事会（令和 6 年 6 月 28 日）、決定後の委員数：11 名】

令和 6 年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和 6 年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	国際地質科学連合 (IUGS) 総会、理事 会、執行理事事務局会 議及び第 37 回万国地 質学会議	8 月 22 日 ～ 9 月 1 日 から 8 月 25 日 ～ 8 月 30 日 に変更	釜山 (韓国)	北里 洋 連携会員 (特任) (早稲田大学教育総合科学学術 院招聘研究員)	地球惑星科学委 員会 IUGS 分科会	・会期の変更 ※実施計画、派遣者及び 連携会員 (特任) の任命 については、第 363 回幹 事会 (令和 6 年 2 月 29 日) にて承認済み。 ※現地出席予定
2	理論応用力学国際会議 (ICTAM) 2024	8 月 25 日 ～ 8 月 30 日 から 8 月 26 日 ～ 8 月 30 日 に変更	大邱 (韓国)	坂上 貴之 連携会員 (京都大学大学院理学研究科教 授)	機械工学委員会	・会期の変更 ※実施計画及び派遣者に ついては第 363 回幹事会 (令和 6 年 2 月 29 日) に て承認済み。 ※現地出席予定

令和 6 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣に係る変更について

以下のとおり、令和 6 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣の変更を行う。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	第 4 回フューチャー・アース総会 (Assembly) 及び Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2024 から 第 4 回フューチャー・アース総会 (Assembly) に変更	6 月 10 日 ～ 6 月 14 日 ※一部調 整中 から 6 月 12 日 ～ 6 月 13 日 に変更	5 日 から 2 日 に変 更	ヘルシンキ (フィンランド) / ハイブリッド形式	高村 ゆかり 連携会員 (特任) (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	・出席会議名称及び会 期の変更 ・出席形式の決定 ※出席形式検討中 から ※オンライン出席 に変更 第 1 区分 (※ 1) Governing Council メ ンバー (ファンダー代 表) ※連携会員 (特任) の 任命については第 364 回幹事会 (令和 6 年 3 月 25 日)、派遣者につ いては第 366 回幹事会 (令和 6 年 4 月 23 日) にて承認済み。

※ 1 令和 6 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針 (令和 6 年 2 月 29 日日本学術会議第 363 回幹事会決定) に基づく区分

日本学術会議主催学術フォーラム
「サステナブル社会への移行における資源循環の役割」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和6年11月22日（金）午後
3. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
4. 委員会等の開催：開催予定あり（材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会）

5. 開催趣旨：

資源循環経済（サーキュラーエコノミー）は、直線経済（リニアエコノミー）から脱却するだけではなく、環境・社会・経済的要因が最適化された条件の下に作り上げられなければならない。その理念を社会実装化する過程に伴い生じる課題を、経済学から工学までの異なる視点から拾い上げ、これらを克服するために、非資源国である我が国の資源及び材料工学はどう進むべきかを問う。

6. 次 第：

コーディネーター

笹木 圭子（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授）

演題・演者等（予定）

「資源循環の経済モデルと実践（仮）」

馬奈木 俊介（日本学術会議第一部会員、九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座教授）

「協創で実現するサステナブルな社会への移行（仮）」

鈴木 朋子（日本学術会議第三部会員、株式会社日立製作所専門理事／研究開発グループ技師長）

「非鉄製錬業における金属資源循環利用技術（仮）」

柴田 悦郎（日本学術会議連携会員、東北大学多元物質科学研究所教授）

「使用済み製品の処理から原料生産へ（仮）」

醍醐 市朗（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学先端科学技術研究センター
准教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和6年度第3四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和6年度第3四半期】 1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案6	「サステナブル社会への 移行における資源循環の 役割」 (企画：材料工学委員会、 環境学委員会、総合工学委 員会、法学委員会)	令和6年11月 22日(金)の午 後	日本学術会 議講堂(ハ イブリッド 開催)	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和6年度第3四半期】 0件

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム(平日2件/土日0件/開催曜日未定0件)全2件
(内訳) ※全件について、経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォー ラム	(土日)				
	(平日)			2	
	(開催曜日 未定)				
合計				2	

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全0件 残り：32件
（内訳）

	関連部等	第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部				
	第二部				
	第三部				
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）					
合計					

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団
4. 日 時：令和6年9月7日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：京都大学国際科学イノベーション棟5Fシンポジウムホール（京都市左京区）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

学術知の担い手として、大学や研究機関に所属する研究者だけでなく、地域住民や一般市民が重要な役割を担うようになってきている。市民がデータ収集等の局面で科学研究の一翼を担い、科学研究の進展に貢献する「シチズンサイエンス」や、市民がテクノロジーを活用して社会課題の解決に取り組む「シビックテック」をとりあげ、それらの活動に取り組んでいる研究者や市民とともに、これからの学術知のあり方について考える。

9. 次 第：

開会挨拶

- 主催者代表 磯 博康（日本学術会議副会長・第二部会員、国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）
- 主催者代表 時任 宣博（京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長）

趣旨説明

中村 征樹（日本学術会議第一部会員、大阪大学全学教育推進機構教授）

講演

- 講演1 「山の健康診断（仮）」
徳地 直子（日本学術会議連携会員、京都大学フィールド科学教育研究センター教授）
- 講演2 「ナメクジの生態を市民参加によって明らかにする（仮）」
宇高 寛子（京都大学大学院理学研究科助教）
- 講演3 「歴史資料の翻刻を市民参加で実施する「みんなで翻刻」プロジェクト（仮）」
橋本 雄太（国立歴史民俗博物館研究部准教授）

- 講演4「オープンサイエンス：第7期基本計画にむけた提言（仮）」
林 和弘（日本学術会議連携会員、文部科学省科学技術・学術政策研究所
データ解析政策研究室長）
- 講演5「シビックテックを通じたオープンなデジタル地図の活用（仮）」
瀬戸 寿一（駒澤大学文学部地理学科准教授）
- 講演6「シビックテックの現場から：兵庫県豊岡市での取り組み（仮）」
砂川 洋輝（一般社団法人コード・フォー・ジャパン）

講演者らによるパネルディスカッション（コーディネーター：中村 征樹）

全体総括

- 村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

総合司会

- 矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考える～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部、岡山大学
2. 後 援：日本生命科学アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団（いずれも予定）
3. 協 力：おかやま地域発展協議体おかやま SDGs 研究会
4. 日 時：令和6年（2024年）8月8日（木）13：00 ～ 15：30
5. 場 所：岡山大学共育共創コモンズ（岡山県岡山市北区津島中1－1－1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：第二部夏季部会を同日及び翌日に開催予定

8. 開催趣旨：

近年、私たちは、気候変動による災害や食糧問題あるいは大規模感染症などの健康危機に直面しています。国際的な開発目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられていますが、この根底にあるのは「ワンヘルス」あるいは「プラネタリーヘルス」といった考え方です。どちらも、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」は互いに密接な関係にあり、一体的に守っていく必要が有る、という認識から生まれた概念です。

科学は、こうした人類が直面する問題を解決する力を持っています。一方で新たな問題を生むこともあります。例えば、健康大国である日本人の平均寿命は延び、同時に獣医学も進歩してペットの寿命も延びています。その結果、高齢者が高齢ペットの看護をする「老々介護」という問題も生じています。

そこで、本シンポジウムでは、気候変動、食糧問題、少子・高齢化・バリアフリー、人獣共通感染症、という具体的な課題について、科学の力で「ワンヘルス」実現のためにできることを、未来を創る次世代とともに一緒に考えたいと思います。

共同主催機関である岡山大学は、「プラネタリーヘルス」の実現に向かって、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命としており、岡山地域や国際社会と一体となってSDGsやESD（持続可能な開発のための教育）を推進しています。そこで、本シンポジウムは、岡山大学のオープンキャンパスのイベントの一環として行います。

9. 次第案

13:00 開会の挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長（第二部会員）、国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）

那須 保友（岡山大学学長、日本学術会議連携会員）

13:10 「気候変動下で水災害と食糧問題に立ち向かうには」

辻本 久美子（岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授）

13:25 「環境に配慮したスマート化で農業は強くなる」

高山 弘太郎（豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授、愛媛大学大学院農学研究科教授、日本学術会議第二部会員）

13:40 「出産・子育ての希望をかなえるワンヘルス社会へ」

牧 尉太（岡山大学病院産科婦人科講師）

13:55 「人生 100 年時代、ペットの寿命も延びるのか」

水野 理介（岡山理科大学獣医学部教授）

14:10 「日本に「障壁のない世界」を創る」

片岡 祐子（岡山大学病院聴覚支援センター准教授）

14:25 「新たに出現した人獣共通感染症に挑む」

米田 美佐子（東京大学生産技術研究所特任教授、日本学術会議第二部会員）

14:40 5分休憩（パネルディスカッション用に会場設営）

14:45 総合討論

講演者及び学生パネリスト3名によるパネルディスカッション
＜モデレーター＞

狩野 光伸（岡山大学副理事／副学長／学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授、日本学術会議第二部会員）

15:30 閉会の挨拶

尾崎 紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授、日本学術会議第二部副部長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催部会会員)

公開シンポジウム
「スタートアップが繋げる農学と農業 ～望ましい共創のあり方～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会、農学委員会、若手アカデミー
2. 共 催：全国農学系学部長会議、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター、株式会社クニエ、Beyond Next
Ventures 株式会社
3. 後 援：農林水産関連の学協会（一般社団法人日本施設園芸協会など）、全国農業大
学校協議会、全国農業高等学校長協会、独立行政法人国立高等専門学校機構
（一部調整中）
4. 日 時：令和6年（2024年）8月29日（木）13：30 ～ 16：50
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 委員会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

我が国の食料安全保障の確保、環境と調和した食料システムの確立に貢献しつつ、豊かな地域社会を存続・発展させるためには、生産・流通・消費の全てのフェーズを対象とした多面的で多角的な活性化戦略によって農林水産業を有望な基幹産業として再興・強化する必要がある。これには、従来にはない柔軟な発想や新たな技術の積極的な導入が求められ、このような社会的取組が模索される中で、アグリ・フードテック スタートアップ (Agri-food tech startup) によるイノベーションに大きな期待が寄せられている。現在、令和3年4月の日本版 SBIR (Small Business Innovation Research) 制度の抜本改正に基づき、農林水産分野におけるイノベーション促進とユニコーン企業創出を目指したスタートアップ支援が展開され、公的資金の投入が予定されている。これら農学分野の科学的な発見や新たな開発に基づいた技術（農林水産ディープテック）に端を発したスタートアップが成長していくために、次なる課題として、農学がそのイノベーションに果たすべき役割の拡大が問われている。本シンポジウムでは、農林水産分野のスタートアップの現状と農学（学術）との連携状況及びその支援体制を整理するとともに、農林水産業の特殊性（時間軸の長さ、地域性の強さ等）を理解した上でアグリ・フードテック スタートアップによる持続的なイノベーションを確実なものにするための“スタートアップと農学の望ましい共創のあり方”について議論する。

9. 次 第：

総合司会：門田 有希（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授）

13：30 開会の挨拶

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13：35 シンポジウムの開催趣旨

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

第一部 農学系ディープテック・スタートアップの現状と公的支援

13：40 「農林水産省が推進する SBIR（スタートアップ支援）」

大熊 武（農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室長）

14：00 「農林水産・食品分野のスタートアップ育成の現状と展望」

原 誠（株式会社クニエマネージングディレクター／スタートアップ総合支援プログラム事業化支援代表プログラムマネージャー）

佐藤 陽介（株式会社クニエ／スタートアップ総合支援プログラム事業化支援事務局）

14：25 「大学発スタートアップを推進する経営人材のあり方」

柊崎 庄吾（ファーマランタ株式会社代表取締役 CEO）

南 博道（石川県立大学生物資源工学研究所教授／ファーマランタ株式会社共同創業者兼 CSO）

14：40 「世代を超えたキャリアとしてのスタートアップ」

梅田 眞郷（ホロバイオ株式会社代表取締役社長／京都大学名誉教授）

14：55 - 15：15 休憩

第二部 スタートアップによる農業と農学の発展

15：15 「農学系技術シーズの社会実装の特殊性」

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

15：35 「農学が考えるスタートアップを通じた社会貢献」

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

第三部 パネルディスカッション

16：00 「スタートアップと農学の望ましい共創のあり方」

コーディネータ：

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

パネリスト：

原 誠（株式会社クニエマネージングディレクター／スタートアップ総合支援プログラム事業化支援代表プログラムマネージャー）

有馬 暁澄（Beyond Next Ventures 株式会社パートナー）

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

小野 悠（日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学学長補佐／大学院工学研究科准教授）

16：45 閉会の挨拶

大越 和加（日本学術会議第二部会員／東北大学大学院農学研究科教授）

16：50 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「心理学国家資格「公認心理師」の社会的役割と活動の実際」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会
2. 共 催：一般社団法人日本認知・行動療法学会
3. 後 援：厚生労働省（申請中）、文部科学省（申請中）、法務省（申請中）、一般社団法人公認心理師の会、公益社団法人日本公認心理師協会（申請予定）
4. 日 時：令和6年9月23日（月・祝）13：00 ～ 15：30
5. 場 所：パシフィコ横浜会議センター（神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

心理学関連専門職の国家資格である公認心理師制度が開始され、概ね6年が経過した。公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野における活動が行われているが、各分野における公認心理師の役割や活動の実際については、いまだ国民に十分に周知されているとは言えない状況にある。

また、国家資格としての公認心理師資格保有者は、支援方法に関する科学的エビデンスに基づいて、当該の支援がなぜ必要であるのかという説明責任を国民に対して果たす必要があるが、エビデンスに基づく具体的な社会貢献の体系化に関しては不十分な側面があることは否めない。

そこで本シンポジウムでは、主要5分野の公認心理師の活動の実際と今後の課題について検討し、本制度と機能のさらなる発展に向けて議論を深めることを目的とする。

9. 次 第：

司会

佐々木 淳（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

- 13 : 00～13 : 10 開会挨拶・趣旨説明
嶋田 洋徳（日本学術会議第一部会員、一般社団法人日本認知・行動療法学会代議員、早稲田大学人間科学学術院教授）
- 13 : 10～13 : 25 ご挨拶・基調講話
 前野 良隆（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課公認心理師制度推進室室長補佐）
- 13 : 25～13 : 35 ご挨拶・講話
 丹野 義彦（一般社団法人公認心理師の会理事長、一般社団法人日本認知・行動療法学会理事）
- 13 : 35～13 : 45 ご挨拶・講話
 信田 さよ子（公益社団法人日本公認心理師協会会長）
- 13 : 45～14 : 00 報告1 保健医療分野における役割と活動の実際
熊野 宏昭（日本学術会議連携会員、一般社団法人日本認知・行動療法学会副理事長、早稲田大学人間科学学術院教授）
- 14 : 00～14 : 15 報告2 福祉分野における役割と活動の実際
 金澤 潤一郎（一般社団法人日本認知・行動療法学会理事、同事務局長、北海道医療大学心理科学部准教授）（予定）
- 14 : 15～14 : 25 （休 憩）
- 14 : 25～14 : 40 報告3 教育分野における役割と活動の実際
 戸ヶ崎 泰子（一般社団法人日本認知・行動療法学会理事長、宮崎大学大学院教育学研究科教授）
- 14 : 40～14 : 55 報告4 司法・犯罪分野における役割と活動の実際
 紀 恵理子（神奈川大学人間科学部人間科学科特任教授）
- 14 : 55～15 : 10 報告5 産業・労働分野における役割と活動の実際
 田上 明日香（SOMPO ヘルスサポート株式会社産業保健メンタルヘルス・コーディネーター）
- 15 : 10～15 : 30 質疑応答・総括・閉会挨拶
 嶋田 洋徳（日本学術会議第一部会員、一般社団法人日本認知・行動療法学会代議員、早稲田大学人間科学学術院教授）
- 15 : 30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「迷走する国際秩序と人道危機」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会
2. 共 催：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」（代表：鈴木基史、令和 5～8 年度）、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」（代表：石田淳、令和 3～7 年度）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 6 年（2024 年）10 月 5 日（土）13：30 ～ 17：00
5. 場 所：東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール（東京都目黒区駒場 3-8-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

冷戦終結後、リベラルな秩序は拡大し、深化してきたが、再び冷戦期に似た分裂と対立の時代に突入しようとしている。これを示すように、東ヨーロッパや中東などの地域では、自由圏と権威主義圏の狭間で武力紛争が勃発し、凄惨な人道危機が生じている。このような状況下で、抑圧からの自由を訴え、市場経済を推奨するリベラリズムの普遍性が疑問視される一方、個人の自由に対して統治の安定を優先する権威主義の倫理性も懐疑的に見られている。本シンポジウムでは、社会や政治に関連する価値観の相違によって分断された現代の国際秩序に焦点を当て、人間の安全保障に資する国際秩序について考える。

9. 次 第：

開会 13:30

開会の辞 13:30-13:40

竹中 千春（日本学術会議連携会員）

解説 13:40-13:55

「国際秩序における国家の安全と人間の安全」

石田 淳（日本学術会議連携会員／東京大学大学院総合文化研究科教授）

講演 13:55-14:20

「Liberalism and Its Challenges: Navigating Divisions, Conflicts, and Humanitarian Crises in the Contemporary International Order」

サブリ・キチマリ（コソボ共和国駐日大使）

休憩 14:20-14:30

報告 14:30-15:40

人間の安全保障の観点から

栗栖 薫子（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院法学研究科教授）

国家安全保障の観点から

中西 寛（日本学術会議連携会員／京都大学大学院法学研究科教授）

国際政治経済の観点から

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院法学研究科教授）

地域研究の観点から

宇山 智彦（日本学術会議第一部会員／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

休憩 15:40-15:50

ラウンドテーブル討論と会場との質疑応答 15:50-16:55

登壇者全員

閉会の辞 16:55-17:00

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院法学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「あごと顔の発生と進化」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和6年（2024年）11月2日（土）14：50 ～ 16：20
5. 場 所：長崎大学医学部第1講義実習棟第1講義室（長崎県長崎市坂本1丁目12-4）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

進化の過程で、消化管の入り口で、かつ咀嚼器官としての口、視覚、嗅覚、味覚、聴覚などの感覚器を擁する顔が発達してきた。顎顔面は、エネルギーの取り込みや感覚受容をする場を提供するとともに、社会生活を送る上で欠かせない個人のアイデンティティ決定に関与する。顎顔面の構造は、脊椎動物で出現し、それには神経堤細胞の出現が大きく関与している。その特徴の一つとして、体幹や四肢では、原腸陥入によって形成される三胚葉のうち中胚葉が軟骨や骨などの硬組織を形成するが、顎顔面では神経堤細胞が歯牙を含む硬組織を形成することが挙げられる。また、脊椎動物の進化過程においても、神経堤細胞はその役割を多様化させ、顎顔面の複雑な形づくりに関与してきた。本シンポジウムでは、脊椎動物を中心に、顎顔面の進化、パターン形成、歯牙の形成への神経堤細胞の関与について、最新のトピックを市民と共有し、顎顔面の成り立ちと重要性について認識を深めることを目的とする。

9. 次 第：

座長・オーガナイザー：

宿南 知佐（日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科教授／歯科基礎医学会会員）

井関 祥子（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授

／歯科基礎医学会会員)

14 : 50～14 : 55

1. オーバービュー

井関 祥子 (日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
教授／歯科基礎医学会会員)

14 : 55～15 : 20

2. 歯の進化と発生

大島 勇人 (新潟大学大学院医歯学総合研究科教授／歯科基礎医学会会員)

15 : 20～16 : 15

3. 頭部形成の初期進化と発生

倉谷 滋 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学
研究センター客員主管研究員)

16 : 15～16 : 20

4. クロージングリマークス

宿南 知佐 (日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科教授／歯科
基礎医学会会員)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「海底地質災害と洋上風力開発」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会
2. 共 催：国際地質科学連合（IUGS）、公益社団法人日本地球惑星科学連合（いずれも予定）
3. 後 援：公益社団法人日本地すべり学会、国際津波防災学会、公益社団法人物理探査学会、海底地質リスク評価研究会、International Consortium on Landslides、National Taiwan University（以上すべて予定）
4. 日 時：令和6年（2024年）11月14日（木）10：00 ～ 18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催未定

8. 開催趣旨：

欧米など諸外国においては、洋上風力発電の開発が進み、再生可能エネルギーの主翼を担う存在となっている。日本においても洋上風力発電の開発が進められている。しかし日本のような活動縁辺域は、急峻な海底地形で大陸棚が狭く、開発地域は限定される。さらに、海底の液状化、泥火山などの沿岸域での海底地質リスクがある。洋上風力発電の持続的な運用には、開発者が海底地質リスクの存在を認識し、適切な計画の上で開発を実施することが必要となる。このシンポジウムでは、専門家、開発者が集まり、海底地質災害と洋上風力開発について議論する。

9. 次 第：

司会 岩城 智香子（日本学術会議連携会員／東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

10:00 「Opening remarks」
IUGS President（予定）

10:05 「開催趣旨」

大久保 泰邦（日本学術会議連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）

セッション1 Case Studies of Submarine Geohazard Events

（コンビーナ：佐々 真志（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所グループ長））

10:10 「海底ジオハザードリスクと洋上風力」

「Submarine Geohazards with the Risk to Offshore Wind」

佐々 真志（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所グループ長）

Shinji Sassa (Port and Airport Research Institute, National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology)

10:30 「混濁流研究の最近の進展」

「Recent Advances in Understanding Turbidity Currents」

成瀬 元（京都大学大学院理学研究科教授）

Hajime Naruse (Kyoto University)

10:50 「海底地すべり・津波研究の最近の進展」

「Recent Advances in Understanding Submarine Landslides and Tsunamis」

David Tappin (British Geological Survey)

11:10 「洋上風力施設における洗掘対策の最近の進展」

「Recent Advances in the Mitigation of Scour in Offshore Wind」

Andreas Roulund, (Ørsted)

休憩 (20 分)

セッション2 Submarine Geological and Geophysical Data Archives

（コンビーナ：木戸 ゆかり（国立研究開発法人海洋研究開発機構研究プラットフォーム運用部門技術主任））

11:50 「地形と地下断面・粒度分布などの既存データを用いた広域な地質傾向を念頭に置いた局所リスク評価の必要性」

佐藤 智之（国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報研究部門地球変動史研究グループ主任研究員）

12:10 「データアーカイブについて」

海上保安庁（予定）

12:30 「Submarine Geological and Geophysical Data Archives」（予定）

Vicki Ferrini (Lamont-Doherty Earth Observatory, Columbia University)

12:50 「Seabed2030, XPrize への貢献、トンガ周辺地形調査等」（予定）

Jaya Roperez (National Institute of Water and Atmospheric Research)

昼食 (60 分)

セッション3 Requirements of offshore geological and geophysical surveys to properly characterize submarine geohazard risks

(コンビーナ: 松島 潤 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授))

14:10 「Guidelines」 (予定)

Jose M R Pacheco (Research Institute for Volcanology and Risk Assessment)

14:30 「リスクと不確実性: 物理探査を用いた地質評価を例にして」

「Risk and Uncertainty: Geophysical exploration for geological assessment」

松島 潤 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

14:50 「Submarine Geohazard map and related methodology」

川村 喜一郎 (山口大学大学院創成科学研究科研究教授)

15:10 「Survey in Taiwan」 (予定)

Char-Shine Liu (National Taiwan University)

休憩 (20 分)

セッション4 Global review of submarine geohazard risks to offshore renewable energy

(コンビーナ: 川村 喜一郎 (山口大学大学院創成科学研究科研究教授))

15:50 「Submarine Geohazards in Japan」 (予定)

金松 敏也 (国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門専門部長)
Toshiya Kanamatsu

16:10 「Submarine Geohazard in Taiwan」 (予定)

Jih-Hsin Chang (National Taiwan University)

16:30 「Submarine Geohazards in Scotland and other countries」 (予定)

Uisdean Nicholson (Heriot-Watt University)

セッション5 International Capacity Building

(コンビーナ: 竹内 彩乃 (東邦大学理学部准教授))

16:50 「AURA-CDT and doctoral education program」

Robert Dorrell (University of Hull) (予定)

17:10 「Education in USA」 (予定)

Nicholas Hayman (University of Oklahoma)

17:30 「パネルディスカッション: ガイドラインに向けて」

パネラー：佐々 真志、木戸 ゆかり、松島 潤、川村 喜一郎、竹内 彩乃

閉会挨拶 関本 真紀（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）理事）
（予定）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議東北地区会議公開学術講演会
「東北地方の持続的食料生産のこれから～畜産業、水産業」（仮題）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議
2. 共 催：なし
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和6年11月30日（土）13：30 ～ 16：35
5. 場 所：東北大学片平キャンパス片平北門会館2階エスパス（宮城県仙台市青葉区片平2-1-1）（ハイブリッド開催）※後日オンデマンド配信予定
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：同日10：15～12：00に科学者との懇談会を開催予定

8. 開催趣旨：

昨今の世界人口の増加による食料需要の増大、政情不安による紛争の勃発と長期化、気候変動、越境性の病害虫・疾病の蔓延などの背景から、日本における食料の安定供給が課題になっている。これらの情勢を受け、食料安全保障の強化に向け、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法の改正案が令和6年2月に閣議決定された。一方、水産業では、平成30年に70年ぶりに漁業法が改正され、また、令和4年に水産基本法の理念である「水産基本計画」が新たに閣議決定された。

日本国土の約18%を占める東北地方は、南北に長く、三方を海に囲まれ、平野や盆地、山脈を備え、水資源賦存量は全国有数であり、各地域で多様な気候を持っている。東北6県の農業産出額は日本全体の約15%、漁業産出額は約12%を占め、いずれも全国3位であり、日本の食料自給率（カロリーベース）38%に対し、72～204%と高水準を維持し、自然と食料資源に恵まれた食料生産が盛んな地域である。

本学術講演会では、日本の食料安定供給を支える東北地方において、主として動物タンパク源を供給する畜産業と水産業に焦点をあて、その現状、各産業を支える学術研究、地域特性を生かして展開する関連企業の取組などを紹介し、世界情勢や気候変動の変化に対し、盤石な東北地方の持続的食料生産の在り方などについて、参加者と考えたい。

9. 次 第：

- 1) 開会挨拶 13:30～13:35
日本学術会議副会長 日比谷 潤子

(日本学術会議第一部会員、学校法人聖心女子学院常務理事、国際基督教大学名誉教授)

2) 開催趣旨の説明 13:35～13:40

木村 直子 (日本学術会議第二部会員、山形大学大学院農学研究科動物機能調節学
分野教授)

3) 講演

13:40～14:05 基調講演

I) 「畜産の現状とこれから(仮)」

眞鍋 昇 (大阪国際大学学長補佐／人間科学部教授、東京大学名誉教授)

14:05～14:25 畜産を支える学術研究

II) 「人工知能を活用した畜産現場における飼養管理の省力化技術の開発(仮)」

市浦 茂 (山形大学アグリフードシステム先端研究センター助教)

14:25～14:45

III) 「安全・安心な牛肉の提供～繁殖から肥育・加工・販売までの一貫生産(仮)」

高橋 勝幸 (高橋畜産食肉株式会社代表取締役社長)

14:45～14:55 休憩

14:55～15:20 基調講演

IV) 「水産業の現状とこれから(仮)」

大越 和加 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授)

15:20～15:40 水産を支える学術研究

V) 「クローバーウニの事業開発～サステナブルに！安定供給！(仮)」

西川 正純 (日本学術会議第二部会員、宮城大学理事／副学長／食産業学群教
授)

15:40～16:00

VI) 「タイトル未定」

津田 祐樹 (株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング代表取
締役社長)

16:00～16:05 休憩

4) 質疑応答 16:05～16:15

5) 総合討論 16:15～16:30

進行とファシリテーター：

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科研究科長補佐／
教授)

パネリスト：

眞鍋 昇（大阪国際大学学長補佐／人間科学部教授、東京大学名誉教授）
市浦 茂（山形大学アグリフードシステム先端研究センター助教）
高橋 勝幸（高橋畜産食肉株式会社代表取締役社長）
大越 和加（日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授）
西川 正純（日本学術会議第二部会員、宮城大学理事／副学長／食産業学群教授）
津田 祐樹（株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング代表取締役社長）

5) 閉会挨拶 16:30～16:35

五十嵐 和彦（日本学術会議第二部会員、日本学術会議東北地区会議代表幹事、
東北大学大学院医学系研究科教授）

司会進行

木村 直子（日本学術会議第二部会員、山形大学大学院農学研究科動物機能調節学
分野教授）

10. 関係部の承認の有無:科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（3）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2. 共 催：ERATO 深津共生進化機構プロジェクト
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7年（2025年）2月15日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

様々な動物とそれらを取り巻く環境との関係や、共生に代表される多様な生物間の相互作用に関する研究成果は、誰もが動物科学の面白さを体感でき、理解を広げる窓口となるトピックスである。

本シンポジウムでは、学生から一般社会の方々までを広く対象として、動物の多様性、生態、進化などに関する最新の研究成果を分かりやすく魅力的に解説することにより、動物科学の普及及び振興を目指す。

9. 次 第：

13:00 開会の辞

深津 武馬（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所生物プロセス研究部門首席研究員）

13:05 「カメムシ類の振動コミュニケーションの世界」

向井 裕美（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員）

13:35 「海産無脊椎動物の多様性と進化」

後藤 龍太郎（京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所助教）

14:05 「昆虫の不思議なリズム」

志賀 向子（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院理学研究科教授）

14:35-14:45 （休憩）

14:45 「動物の体の形のできかた」

田中 幹子（東京工業大学生命理工学院教授）

15:15 「脊椎動物形態進化の黎明期の謎」

平沢 達矢（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻准教授）

15:45 総合討論

（司会）入江 直樹（日本学術会議連携会員、国立大学法人総合研究大学院大学統合
進化科学研究センター教授）

16:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第50回全国語学教育学会年次国際大会

主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会

期間：令和6年11月15日（金）～11月18日（月）

場所：静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ

参加予定者数：約1,400名

申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会（JALT）

代表者 金子 クレア

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部承認

2. ランチョン大討論会：私達が望む神経科学の研究環境—よりよき現在と未来へ向けて

主催：一般社団法人日本神経科学学会（将来構想委員会）

後援：日本脳科学学会連合、生物科学学会連合、日本科学振興協会、SciREX、他

期間：令和6年7月27日（土）12:15～14:15

場所：Neuro2024（福岡国際会議場第3会場）

参加予定者数：現地約200名、オンライン約100名

申請者：一般社団法人日本神経科学学会

理事長 山中 宏二

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○今後の予定

●幹事会

第 3 6 9 回幹事会	令和 6 年 7 月 2 9 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 7 0 回幹事会	令和 6 年 8 月 3 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 7 1 回幹事会	令和 6 年 9 月 3 0 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 7 2 回幹事会	第 1 9 2 回総会期間中に開催	
第 3 7 3 回幹事会	令和 6 年 1 1 月 2 8 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 4 回幹事会	令和 6 年 1 2 月 2 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 7 5 回幹事会	令和 7 年 1 月 2 3 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 6 回幹事会	令和 7 年 2 月 2 7 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 7 回幹事会	令和 7 年 3 月 2 7 日（木）	1 4：3 0 から

●総会

第 1 9 2 回総会	令和 6 年 1 0 月 2 1 日（月）～2 3 日（水）
-------------	--------------------------------